

協同の力で築く 「多彩な農業」と「元気な地域」

JA多気郡では、平成27年11月 第42回 JA三重大会で掲げられた
【協同の力で築く「多彩な農業」と「元気な地域」】を大きなテーマとして位置付け、
平成28年度事業計画より中期3か年計画に「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の
3つを掲げ、自己改革に取り組んで参りました。

農業生産の
拡大

農業所得の
増大

地域の
活性化

JA多気郡は
自己改革に
取り組んでいます



JAの主人公は組合員のみなさん

食と農を基軸として地域に根ざした協同組合（JA）は、同じ目的や志を持った人々が集まり、組合員となることで成り立っている組織です。正組合員は、農畜産物の生産や販売、生産資材の購買などに協同の力で取り組むことで、豊かな農業

を育むことができます。そして、消費者に安全で安心な農畜産物を届け、わが国の食と農を守っています。地域の農業を豊かにすることは、地域の元気にもつながります。農業を通じて地域を豊かにする主人公、それがJAの正組合員です。

営農指導事業



営農に関する技術指導や相談等、組合員の営農支援のための活動を行っています。

農業経営事業



担い手が不足する地域の農地を中心に農業経営、農地維持を行っています。

販売事業



市場に有利販売ができるよう、農産物をまとめた数量で売る「協同販売」を行っています。

購買事業



農業や生活に必要な安全で品質のいい資材を大量購入等で安価に仕入れ、安定的に供給しています。

利用事業



個人では所有できない大規模な乾燥設備や搾油施設を利用できるように設備運営しています。

生活指導事業



組合員のライフスタイルに合わせたくらしの活動を提案し、地域の活性化に取り組んでいます。

信用事業



地域の金融機関として、貯金・融資・為替業務などの金融サービスを提供しています。

共済事業



助け合いの理念に基づき「ひと・いえ・くるまの総合保障」を提供しています。

総合事業の意義

JAは、上記のように、多様な事業を総合的に展開することで、地域農業の振興や地域づくりに努めています。とりわけ、収支が厳しい農業関連

事業は、信用事業や共済事業などを含めた総合事業だからこそ、営農指導員の配置や大規模な農業施設投資を実現できています。

准組合員は地域の農業を豊かに

農業に直接的には関わることがあまりない人々でも、「准組合員」になることで、JAの事業を利用できるようになる仕組みがあります。JAには、信用や共済、ガソリンスタンド、高齢者福祉などさまざまな事業があります。これらは利用すれば、地域でより暮らしやすくなる事業ばかりです。正組合員にかぎらず、地域でJAの事業を必要とする人々が准組合員なのです。地域の農業

を豊かにするためには、生産者だけでなく、農畜産物を食べる消費者の理解も必要だと思います。准組合員は、単にJAの事業を利用するだけの人々ではありません。正組合員と共に食を通じて農業を育み、豊かな地域社会を築くJAの大切な仲間なのです。JAの主人公として、正組合員と准組合員が共に手を取り合い、食と農を通じて地域を豊かにしていきましょう。

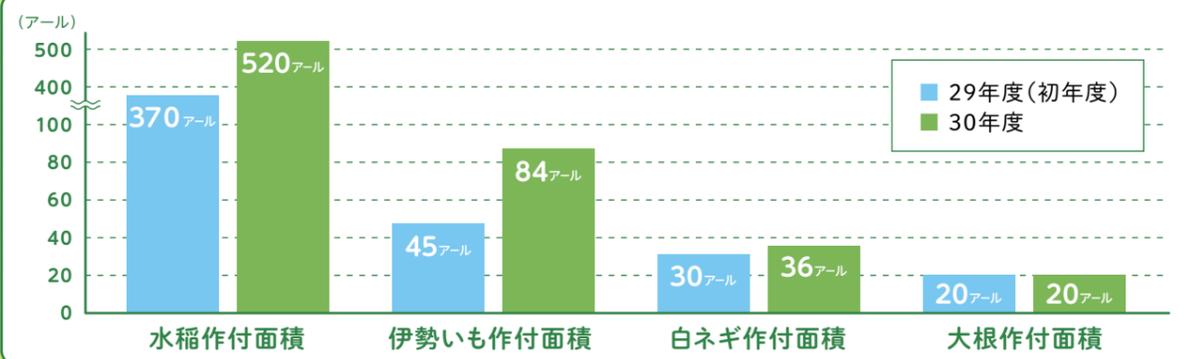
JA多気郡は、総合事業で組合員・地域の皆様に必要とされるJAであり続けるために、組合員・地域の皆様とともに一歩先を目指し、「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として自己改革に取り組んでいます。

J A 多気郡 の自己改革

「農業生産の拡大」「農業所得の増大」への挑戦

J A 出資型法人の設立

地域農業を支える多様な担い手や新規就農者の育成等をすすめるため、当JA100%出資の子会社である「株式会社 多気郡アグリサポート」を設立しました。地域農業の担い手と共に産地の維持、拡大、農作業の請負事業の他、農産物の生産・販売、新規就農者研修事業を行っています。今後も規模拡大と地域農業の維持、振興、優良農地の保全に取り組みます。



米の品質向上に向けた取り組み

良質米生産に向け、土壌診断に基づく土づくりを推進し、適正な施肥により、高品質・良食味米の安定生産を図りました。また出向く営農指導を強化し、生産者への生育診断等に基づく巡回指導やタイムリーな情報発信「営農だより」により栽培管理徹底の呼びかけを行いました。この取り組みにより、平成28年度産の一等米比率は平成27年度産の69%から84.4%に向上しました。29年度産は三重県内、特に中勢用水の水系において、7月末までの極端な水不足による生育不足と出穂後登熟期の日照不足により、様々な営農指導の甲斐なく作況指数が95という全国ワースト2位になると共に、品質についても白未熟粒の増加により1等米比率が低下しました。

成果指標	27年度	28年度	29年度
販売高	5億400万円	4億9600万円	5億5800万円
数量	42,619俵	45,940俵	42,944俵
一等米比率	69.0%	84.4%	27.1%



加工用野菜の生産振興

食の外部化が進展し、加工・業務用野菜の需要が拡大する中、担い手を中心に水田裏作への提案を行い、農家の経営安定と所得向上を目的に、加工業務用野菜(白菜・キャベツ・南瓜)の作付け提案を行いました。



成果指標	27年度	28年度	29年度	
加工用野菜 (白菜・カボチャ・キャベツ)	生産面積	1,391アール	1,654アール	1,797アール
	出荷量	728.1トン	731.8トン	522.8トン
	販売高	3,670万円	3,307万円	2,278万円
	出荷者数	58人	56人	52人

※平成29年度については、度重なる台風の影響で収量・品質が低下しました。

組合員農家のトータルコスト低減の実践

肥料・農薬

価格入札や相見積りによって仕入れ価格を抑え、購買価格に反映しています。生産者の生産資材コストの低減化を目的に、早期予約価格を設定し取りまとめを行いました。全国約400銘柄から約10銘柄に集約し、1銘柄当たりの生産量を増やし製造コストを引き下げました。新たな園芸用有機配合肥料「菜果の匠(J A多気郡オリジナル)」を導入し、また園芸用化成肥料「園芸化成480」は原材料を見直し低価格を実現しました。2銘柄とも15kg包装により労力軽減を図りました。



路地で野菜を栽培していましたが、ハウスのおかげで時期より早く出荷できました。

生産資材

園芸振興を目的に市場や農産物直売所拡大や新規品目の栽培に取り組む生産者を対象とした「新設増設パイプハウス資材助成」を行っています。

成果指標	28年度	29年度
件数	5件	1件
金額	232,832円	50,000円



肥料・農薬大口予約購入者への奨励金の実施(水稲・茶)

水稲・茶関連の大口購入者への対応として、50万円以上の予約購入者を対象に購入金額に応じて奨励を実施しました。

成果指標	27年度	28年度	29年度	30年度
件数	64件	60件	61件	60件
金額	395万円	393万円	387万円	428万円

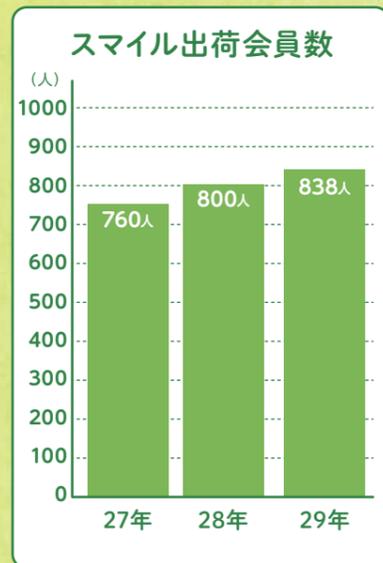
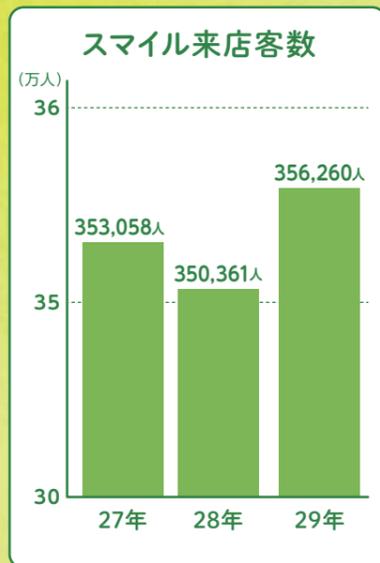
J A 多気郡 の自己改革

農産物直売所スマイルの販売拡大

旬の農産物をはじめ加工品や惣菜など品揃えの充実に努めるとともに、生産者と消費者をつなぐ集客イベントを開催し、販売拡大に取り組みました。安全・安心な農産物の提案に向けて、出荷者へ生産履歴記帳と農薬の適正使用に関する指導を行うとともに、定期的に残留農薬の自主検査を実施しました。また、「多彩な野菜づくり」の推進による新規栽培農家と販売アイテムの増加を図り、端境期への栽培に向けたハウス栽培・品目提案を行いました。



年間売上金額「50万以上」の出荷者数の推移



自然の味処すまいるの地元食材を活かした店舗づくり

地元食材を使用した利用客の食のニーズへの対応と地産地消の推進に取り組みました。季節に応じた食材を生かし、食を通じた農産物のアピールを行うとともに、安全・安心な手作り料理を提供しました。



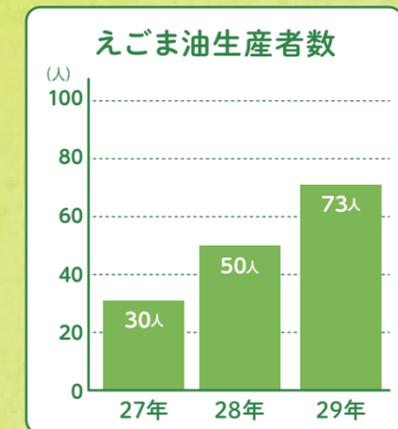
新たに奥伊勢えごま倶楽部の発足とえごま商品の開発・販売協力

健康志向による需要と獣害被害に強く中山間部栽培に適したえごま栽培の産地化を目指し、平成28年に新たに「奥伊勢えごま倶楽部」を設立しました。また、えごまの生産振興に加え、農業所得の増大・安定化を目指し、拡大するえごま栽培の需要に応えるべく、大台町に平成29年度えごま油搾油所を新設し、えごま関連の開発・販売に取り組んでいます。

えごまには、体内では合成できないαリノレン酸が豊富に含まれています。くせのないサラッとした口当たりです。



えごま搾油機



次郎柿の販路拡大

次郎柿生産の拡大と輸出等による農家所得の増大・安定化に向けて、品質向上と販売強化を目指し、選果場の刷新を行いました。無落差選別システムとカラーセンサー選別を導入し、秀品率の向上と上位格の創出が可能になりました。また、個包装機を導入し、包装作業の効率化に加え、柿の日持ち向上により出荷時期を延ばすことが可能となり、海外への輸出拡大を図ることができました。



成果指数	27年度	28年度	29年度	30年度
販売高	9,322万円	1億4,326万円	7,190万円	1億634万円
出荷量	663トン	778トン	465トン	658トン
輸出处荷量	4.1トン	20.2トン	12.3トン	19.0トン

※平成29年度については、度重なる台風の影響で収量・品質が低下しました。



JA多気郡の自己改革

農機、給油所と自動車整備工場の複合施設「パルステーション」のサービス拡充

農機センターでは、農繁期における休日対応により、利便性の向上と農機具点検整備会や安全講習会を開催し、農作業中事故の未然防止に努めました。給油所と自動車整備工場の拠点として、明和給油所では、セルフ式給油機と最新型ドライブスルー式洗車機や洗車後の拭き上げセットなどを備えサービスの充実に取り組みました。また、自動車整備工場は熟練した整備士が修理・車検等のメンテナンスを行います。給油所、自動車整備工場ともに年間を通じた営業稼働日増により利便性の向上に取り組みました。



広報活動の強化

広報誌「はばたき」やホームページ、パブリシティ活動(マスコミを通じて報道してもらう取り組み)により、組合員をはじめ多くの地域住民に「農業振興の理解者、応援団」となって頂けるよう「食」「農」「協同組合」に関する情報発信を強化しました。



「地域の活性化」への貢献

ふれあい活動・地域貢献活動

JA多気郡が事業運営を展開する3町(明和町・多気町・大台町)の各支店および営農センターを組合員・利用者の皆さまの最も身近な拠点と位置づけ、JA多気郡の役職員が地域行事等に積極的に参加し地域の活性化に努めています。

地域美化運動



清掃活動や花壇の整備など

地域イベントへの参加



お祭り等へ運営スタッフとして参加

スポーツ大会への参加



明和スポーツまつりに参加

交通安全運動(全拠点)



通学路等見守り活動

管内3町への地域活性化活動に対する寄贈とJA多気郡のPR



相可高校へ農業機械の寄贈



公共福祉施設へ新米寄贈

JA多気郡の自己改革

「食」と「農」を基軸とした協同組合活動の展開

JA多気郡は、地域の未来を担う子どもたちに対し、食を支える農業の役割、農業と生活・社会との関わり、地域の食文化、いのちと健康の尊さなどについて理解を深めてもらうための「食農教育」を関係機関や女性部員、地元の農家の皆さんの協力を得ながら実施しています。また、親子料理教室など世代やニーズに応じた食農教育を実施し、「食」と「農」に対する関心を高め、地域農業への理解促進に取り組みました。

農業体験教室



小学生の大豆の種まき



ミニトマト栽培

出前授業



小学生と栽培・収穫した大豆で豆腐作り



野上がり饅頭(いばら饅頭)作り

高齢者の生きがいづくり

年金をお受け取りいただいている方を対象に、グラウンドゴルフ大会やゲートボール大会、ゴルフ大会を開催し、多くの方にご参加いただいています。助け合い組織「にじの会」は、協力会員による高齢者の集い(ミニデイ)などの活動を行っています。また、「ふらっとほーむ」を開所し、介護予防活動を行いました。

グラウンドゴルフ大会



介護予防活動



女性組織の育成・活性化

「食」や「農」、「暮らし」に関心がある女性の参加を促進し、女性部の会員拡大に取り組み、全体活動と各支部の独自活動の展開により、女性部の活性化に努めました。女性の声を事業運営に反映させるため、女性部役員とJA役員との意見交換会を開催し、積極的な話し合いを行いました。また、地産地消の理解を深めるため、学校給食野菜栽培グループ「すこやかクラブ」「ベジタブル会」が、安全・安心な野菜を管内の学校給食へ提供しています。

JA役員と語る会



学校給食用の玉ねぎ収穫

